温かい　繋がる　支え合う　学び合う
山梨 YMCA 岡島デイサービスセンター
ぶどうの木
わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。ヨハネによる福音書15章5節

〒400-0031
甲府市丸の内1－21－26
甲斐物産ビル7F
Tel・Fax：055-235-5021
e-mail：grape@alto.ocn.ne.jp

ぶどうの木のご利用につきましては上記まで御相談ください。

ぶどうの木では今

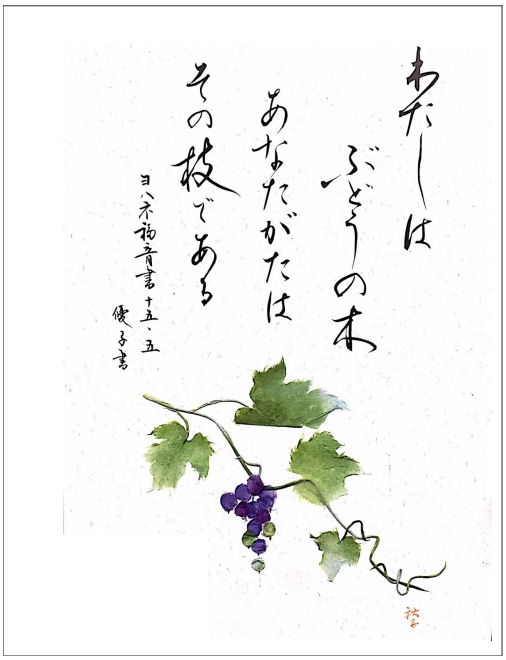
9月中旬、連休明けの朝一番にぶどうの木の電話が鳴りました。長くご利用を続けてくださっているYさんのご家族からであることがすぐに解りました。少々慌てていらっしゃる様子が伝わってきました。「そちらに伺う前に、今、息を引き取りました」とのこと。連休前日にもご利用されたのですが、体調整わず、ソファで横になっていることが多かったのです。Yさんの体調を案じた看護師が付き添って帰宅しました。帰宅後、家族と共に看護師も同行し受診しましたが、診療所の医師に「自宅で様子をみるように」との指示で帰宅されました。ご家族は不安であったと思いますが、連休中をご家族と共に自宅で過ごされました。連休明け、Yさんはぶどうの木を利用の予定で朝食を済ませ、着替えている最中に急変し、そのまま静かに逝かれたとのこと。すぐにご自宅に伺い、Yさんにお目にかかりました。何時ものご利用中のYさんそのままに美しく、静かなお人柄を思わせるお姿に接し、安らかで静かな最期であったことが伝わってきました。　後日、ご家族そろってぶどうの木を訪れて下さり、また、ご家族のお気持ちをしたためられたお手紙も頂戴いたしました。いただきましたお手紙の一節を紹介し、Yさんを偲びたいと想います。

「何より自宅で最期を迎えられ、本人も満足しているのではないでしょうか」「柩の中には孫がそれぞれにしたためました手紙を胸に、生前好きだった菓子、『ぶどうの木』で作った品々、折り紙、色とりどりの沢山の花々に囲まれて、・・・黄泉の道へと送り出しました」「苦から解放されたその顔は綺麗で神々しささえ感じられました」「私たちからは、いろいろな困難を乗り越え約一世紀を気丈に生きてまいりました母に『お疲れさまでした』と労いの言葉を送りたいと思います。」・・・

Yさんの亡くなられた2か月前、7月中旬、私は恩師、日野原重明先生が105歳で天国に召されたことを報道で知ったばりでした。先生は今年3月に体調を崩され、先生が名誉理事長をされ「こころの故郷」と言われていた聖路加国際病院に入院されたのですが、延命治療は望まれず、一週間程度で退院され、人生の終焉の4か月余りをご家族の介護と訪問診療、訪問看護・介護を受けながらご自宅で過ごされまれました。葬儀の日、ご長男は次のように挨拶されたとの記事もこころに響きます。「自宅で過ごした4か月は、神様から与えられた貴重な時間でした。お気に入りの庭を眺め、平静な心を持ち過ごすことができました」と。多くの方々を看取ってこられ先生、お一人ひとりのいのちを大切にされた先生らしい最期であったと思います。病床数が削減され、入院は治療の必要なごく限られた期間のみに制限される昨今ですが、入院できないから自宅で過ごすのではなく、逆にお一人ひとりにとって、最期を過ごす望ましい場所としての「在宅死」であると思います。　家族にとって去り逝く人を看取ることは、本来苦しいこと、悲しいことではありますが、しかし、死を見つめることは生を見つめることに他ありません。Yさんのご家族、日野原先生のご家族にも、ことばを超えた大切な何かが伝わったことでしょう。そしてそれは私たちにも伝わってきたのです。最期まで「ぶどうの木」に繋がってくださったYさんに感謝を捧げます。

（ここにYさんご家族からのお手紙の一部を掲載させていただきますことは、ご家族様からご承諾いただいております。感謝いたし

管理者　小野興子



クリスマス会のおしらせ

日時:12月12日（火）11時～
場所:岡島ロイヤル会館
詳細は後程お伝えします。

笑顔いっぱいのぶどうの木

介護職員　古屋　みか

8月からぶどうの木で介護職員として勤めさせて頂いております。両親に介護が必要となった時のためにと思い昨年資格を取りました。他にも幾つかの仕事をしていたので介護の仕事をする予定は無かったのですが、小野さんに声を掛けて頂いて週に1日だけお仕事をさせていただくこととなりました。勤務初日、座学で得た介護の知識しかない私は不安でいっぱいでした。私に介護の仕事なんてできるのだろうか？お世話をするって何をしたら良いのだろう？でもいざ仕事が始まってみると、そんな私の不安や緊張は一気に吹き飛びました。先輩職員やボランティアさんは何も分らない私に優しくしてくださり、そして何より人生経験豊富な素敵な利用者の方々から温かい声を掛けていただいてとても嬉しく幸せな気持ちになりました。お世話をしなくてはと力んでいたのは全くの間違いで、お手伝いをさせていただきながら一緒に楽しく過ごせば良いのだと気付きました。笑顔がいっぱいのぶどうの木に連なることかできて本当に良かったです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ボランティアさん便り⑨

ボランティアは学びの時

石原　靖子（利用者家族・ボランティア）

夫は今85歳。ぶどうの木にお世話になって3年余りになります。クモ膜下出血で倒れ、手術・リハビリ等約7か月の入院生活を経て、要介護5・障害一級の手帳をいただいて退院しました。左半身が麻痺し、歩行も出来ない状態で、車椅子でぶどうの木へ通い始めました。在宅リハビリもしましたが、ぶどうの木の適切なリハビリと、明るくやさしいスタッフの交わり、体調をチェックしながらの細やかなトレーニングでどんどん回復し、今では要介護3・障害二級になりました。不自由だった言葉も自由に話せ、杖を使い自分でトイレにも行けるようになりました。4年前のことを思うと夢のようで、感謝でいっぱいです。夫がぶどうの木に行く日は、日々の介護から解放される私の息抜きのひとときです。

私は夫が倒れる前からボランティアとしてお手伝いをしていましたので、時間がある時はいつも顔を出して皆様と楽しい時間を過ごしています。家にいると眠ってしまいがちな利用者の皆様が、大勢の方達の笑顔に触れ、笑い声を聞き、大きな声で歌をうたい、リハビリの運動をしていると、脳が刺激を受けるのか表情が輝いてくるのが見られうれしくなります。人生経験豊かな皆様の姿にいつも教えられ、学ぶことがいっぱいです。これからも共に寄り添いながら、穏やかな時を過ごして行きたいと思います。

生活相談員（看護師）　両宮恵子さんにちょっとインタビュー

4周年を迎えたましたが、これまでを振り返って、ここの特徴、良さとかをお聞かせください:

何しろ職員も利用者さんも楽しいんです。本当に和気あいあいですよ。ぶどうの木は楽しい！

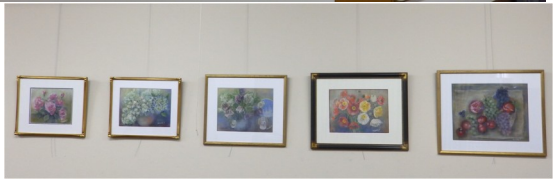
利用者さんは:利用者さんを私たちが支えているばかりでなく、職員の手伝いをしてくださるも方もおりますし、仲間同士支えあってもいるのです。なにしろ良く会話がはずみますよ、怒る利用者さんもいないのです。むしろありがとうの感謝の言葉が多いですね。中にはThank you・Dunkeなんて言う方もおりますし（笑）。

職員は:職員の特徴は年配の看護師が多いことです。でも皆さん一流ですよ。ですから介護度の高い利用者さんも多く来られますね。

ボランティアさんは:ボランティアさんも良くやってくださり頭がさがります。ここはおやつが良いですよ。ボランティアさんも職員も良く手作りで持参してくださいます。

最後に一言:そうですね確かに若い職員がほしいですね。でも年配者だからこそ経験からくる配慮が良くできる面もあると思うんです。若い時にそれほど看護に熱が入って無かった気もしますが、今は利用者さんを支えることに一所懸命で、それで熱も入り、楽しいんですよ。　ありがとうございました（K.S）

ぶどうの木ギャラリー



鶴田東和氏パステル画展（左）
8/1～9/29

花々の美しさを優しく包み込んだような色彩のパステル画。
利用者さんの声：優しい絵だね。描き方を知りたいね。

五味優子氏書道展（右）9/30～

聖書のみ言葉を題材にした書と添えられたちぎり絵のカレンダーの原画数点。